

愛犬同伴避難トレーニング

ペットを連れて同伴避難する際の飼い主の心得と災害を乗り切るための犬のトレーニング

同伴避難トレーニング

開催目的

東日本大震災では多くの動物が飼い主と離ればなれとなり、被災者は、ペットと離ればなれになることによる精神的なダメージをも受けることとなりました。飼い主は家族でもある自分のペットを守る義務があります。そして辛い避難生活を送らなくてもいいように災害発生時に動物同伴避難が可能となるよう準備しておく必要があります。

このプログラムでは、動物同伴でスムーズに避難すること。避難所でトラブル無く避難生活が送れること。仮に離ればなれの生活となった場合でもできるだけストレスなく動物保護施設で生活できること。病気やけがの場合もきちんと治療できること。などあらゆるシチュエーションにあわせたしつけトレーニングを行います。そして最終的に地域での総合防災訓練に動物同伴で参加します。

○ 開催日

毎月第1 週日曜日 10:30 受付
11:00 開始

○ タイムスケジュール

1 はじめの部（飼い主への防災講座）

過去の災害発生時の状況から必要な避難用品の確認や使い方の練習とトレーニングの必要性を理解する。

休憩

2 後半の部（犬のトレーニング講座）

飼い主とともに災害発生時を想定した様々なシチュエーションに応じた実践的なトレーニングを習い修得する。

3 おさらいと卒業試験

習ったことをペットと共におさらいする。

準備する物

首輪

リード

ケージ

注射の証明書(鑑札)

トイレ道具

木酢

ティッシュ

避難道具

薬(常備薬)

フード(2～3日分)

救急セット

水

靴下

おもちゃ

タオル

服

お手拭

ビニール袋

キャラピナ

懐中電灯

音がする物セット

目次

1 飼育者の防災講座

(1) 飼い主の心得	3
(2) 避難道具の確認	6
(3) 信頼関係の確立	12
(4) 動物愛護の実践	13
(5) 地域社会への貢献と交流	14

2 犬のトレーニング講座

(1) 基本的なしつけ確認	15
(2) 避難のためのトレーニング1(一緒に逃げる)	15
(3) 避難のためのトレーニング2(安全に逃げる)	17
(4) 避難のためのトレーニング3(集団で逃げる)	18
(5) 避難のためのトレーニング4(避難所での生活)	19
(6) 地域の総合防災訓練への参加	22

愛犬同伴避難トレーニング資料編

1 地域防災計画の確認	25
2 避難所の確認	25
3 避難場所では	27
4 仮設住宅では	28

避難者記入用紙	29
---------	----

1 飼育者の防災講座

(1) 飼い主の心得

過去の災害時の状況を見ると、ペットとの同伴避難が認められずに被災地に動物達が残されることにより、辛い避難生活を送らなければならなかった状況が多く認められます。そして、取り残されたペット達を救うため大変な思いをしなければなりませんでした。

また、大規模災害発生時の避難所では、必死な思いで避難してきた人々でいっぱいになります。その中には動物が苦手な人、動物が好きでもアレルギー症状を発症してしまう人など皆が動物と一緒に避難生活を望んでいる人達だけではありません。

ペット飼育者は、普段から動物同伴可能な避難所などを確認しておいたり、飼育者同士のコミュニケーションを図り、いざという時に助け合えるようなお付き合いをしておかなければなりません。また、最低限周囲に迷惑や不快感を与えることの無いような飼育の仕方をしておかなければなりません。

状況によっては、避難所に動物がいることで、他の避難者や子供達の励みになることもあります。我々飼い主は、しっかりとペット防災について準備をしておく義務があります。



新潟県職員に救助される犬（中越大震災）

① 犬の登録と狂犬病予防注射の徹底

犬の登録は、犬を所有している証明となるばかりでなく、市町村台帳に掲載されることから災害発生時の動物救済の貴重な情報となります。また、狂犬病予防注射は人が狂犬病に罹患しないように法律で義務付けられていることを意識し、必ず受けておかなければなりません。日常生活で自分の犬は室内で飼育していて外に出さないからとか人に噛みつかないからなどの理由で実施していない飼い主が見受けられますが登録注射の義務を果たしていないと避難所での生活はできません。

② 避妊・去勢の徹底

犬や猫は、避妊去勢をしておかないといくらしつけが行き届いていても、本能で行動することとなります。一緒に逃げなければならない場面で雌を追ったり、避難所で雄同士がけんかをしたり、発情時のため雌が出血すると、周りの雄は興奮して騒ぎだしたりします。場合によっては、望まない繁殖が起こることも考えられます。避難生活でのペットのストレスを減らすためにも必ず繁殖制限手術をしておきましょう。

③ 健康管理

災害時には飼い主もペットも大きなストレスをかかえなければなりません。日頃から自分のペットの健康状況を確認し、問題を解決しておく必要があります。寄生虫、のみ、ダニ、フィラリアの駆除はもちろんのこと、病気の治療中であればお薬は切らさないよう準備しておかなければなりません。ペットと離ればなれになることも想定し、疾病の状況等を把握して記録しておく必要があります。

また、混合ワクチンの接種は他の動物と接触したときに自分のペットの健康を守る上で重要です。日頃、外に出さないからと接種しておかないと災害時の集団生活で重大な疾病に罹患してしまうことがありますので、定期的に接種しておきましょう。

④ しつけ

基本的なしつけは、日常生活の中でペットと仲良く暮らしていくために必要であることはいふまでもありませんが、災害時には、避難するとき、避難所での生活、飼い主と離ればなれで生活しなければならない場面、動物病院での治療、仮設住宅や集合住宅での生活等、災害の発生当初から解消するまであらゆる場面を想定したトレーニングをしておく必要があります。

普段の生活の中で必要な基本的しつけの他に災害時発生時に戸惑うことのないよう他の犬と一緒に避難のためのトレーニングを受講し、地域の総合防災訓練に参加してみましょう。



基本的なしつけ

⑤ 避難用品の準備

災害発生時には、動物との同伴避難が基本です。過去の災害を見ると避難指示が出されると何ヶ月も何年も自宅に帰れないことが多くあります。最愛の家族であるペット同伴避難は災害時の飼い主の義務です。ペットを家に残して悲しい思いで避難することのないよう日頃から動物と一緒に避難できるように人間用の避難グッズだけでなくペット用のグッズも一緒に準備しておかなければなりません。必要な避難グッズの確認と非常時の使い方をマスターし、早速準備しておきましょう。

⑥ その他の準備

災害はいつ発生するかわかりません。夏の暑い時期の避難は、鼻先の短い犬種や長毛種では熱中症に気を付けなければなりません。長毛種の場合は、暑さ対策のため夏場は毛を短く刈っておくと有効です。

また、冬場雪中での避難が必要な場合、長毛種は体毛に雪玉が付着し、うまく歩けなくなることがあります。そんな場合はウエットスーツタイプの服を着せるとスムーズに避難ができます。犬種にあわせて災害発生時にあてないよう日頃から自分のペットのことを良く理解し、必要な準備をすすめておかなければなりません。



熱中症予防グッズ

（２）避難道具の確認

ペットとの同伴避難の際には無事に避難することが最も大切です。そのためには避難中安全に避難できるように基本的な避難用具を確認しておかなければなりません。また、ご自分の飼っている犬種の特性に合わせたグッズやお住まいの地域で想定される災害に合わせたペット用のグッズも必要となります。

避難所での生活に備えた用品も持参しなければなりません。ここでは必要な避難用具を確認し、使用方法を勉強します。

① 愛犬手帳・写真等の情報をいれた携帯電話

手帳に住所、氏名、登録番号、注射年月日、連絡先の電話番号、既往歴、混合ワクチン接種日、ペットの生年月日、繁殖制限手術の有無等の情報を記載しておきましょう。そしてこれらの情報を携帯電話で写真にして保存しておくこともお勧めします。（携帯電話には愛護センター、保健所、市役所の電話番号も保存しておくこともお勧めします。）

避妊・去勢手術の有無によって保管場所の分離の必要性や年齢による給餌の種類、管理の方法が決まりますので、毎年更新を忘れないようにしましょう。

写真を撮影する場合は、ペットだけでなく、家族も一緒に写っていると保護されてから返還までの時間が短縮されることがあります。また、マイクロチップを入れておくと所有者の情報がしっかりと確認できます。



鑑札・注射済票



予防接種証明書

② 首輪とのびないリード

首輪がゆるんでいないか確認し、首輪がはずれやすい犬の場合はハーネスを装着しましょう。首輪には鑑札や迷子札を装着するか、携帯電話番号、飼い主の氏名等を記載しておきましょう。基本的にはハーネスより首輪の着用がペットを制御するためには有効です。

リードは、制御しやすい長さ概ね 1.2m 程度の物とします。リードが細すぎると制御するときに滑って飼い主が手にやけどを負ったり、ペットが体にやけどを負ったりすることがありますので注意しましょう。また、必要以上に太いと取り扱いが難しくなります。



適正な長さのリード



リードを装着しての避難

③ キャリーバック

小型犬や猫はキャリーバックに入れて移動します。なお、キャリーバックは移動中の振動等で開かないようガムテープで補強しましょう。布製のキャリーバックは噛み切ってしまう場合がありますので注意が必要です。



適切な大きさのキャリーバック

④ キャラピナ

大きめの物を準備し、リードをベルト等に固定し両手をフリーにしたり、避難所の柱等に固定しリードを繋いだりするのに大変便利です。適正な大きさの物を準備しておきましょう。



キャラピナ



非常食

⑤ フード・水

最低3日間分以上のフードを準備します。処方食等特殊な物は5日以上準備しましょう。大好きなおやつ等も準備しておくことでペットを落ち着かせる上で効果があります。

水は飲水用の容器をセットで準備しておきましょう。散歩用の飲水容器が便利ですが水は別のペットボトルにしっかりと口を閉めて多めに持参しましょう。適宜補充しておくことも大切です。

⑥ 救急セット

消毒液、傷薬、軟膏・包帯などを用意しておきましょう。人間用の物を兼用できますが、普段から服用している薬やノミ、ダニの駆虫薬、フィラリアの予防薬などは忘れずに準備しましょう。



⑦ ペット用の服

避難中のペットのけがの予防や避難所での毛の飛散、アレルギー対策のために必要です。がれきの中を歩行する場合は子供用ソックスも有効です。Tシャツを利用した簡単なペット用の服の作り方も覚えておきましょう。

右の服は風を通すと冷たくなる工夫が施されています。左の服は、長毛犬に雪が付きにくく、毛玉が出来ないように工夫されています。

ファッションではなく、実用を考えて選択しておかなければなりません。



熱中症予防服



毛玉付着防止用服

⑧ おもちゃ

避難生活の中で犬を安心させ、落ち着かせるために大好きなボールなどのおもちゃを持参しましょう。ペットを落ち着かせるだけでなく、ペットと遊ぶことで飼い主も安心して避難生活を送ることができます。また、避難所で他の避難者とのふれあいにも有効です。



おもちゃ



タオルと手袋

⑨ タオル

体を拭いたり、包帯のかわりになったり、毛の飛散防止にも役立ちます。また、保温や犬を安心させる効果もあります。

ゴム手袋は排泄物の処理などにとっても役に立ちます。家族の避難用に小箱単位で準備しておくとも便利です。

⑩ ビニール袋、ペットシート、新聞紙、ガムテープなど

排泄物の処理、雨天時の雨よけ、フードの保管等様々な場面で活用できます。大きさの異なる物を普段から持ち歩くようにしておきましょう。

ペットシートは人の排泄物を処理する場合も活用できますし、おしっこパットは人間のパットを活用できます。



ペットシートとマナーベルト



うんち用パック

⑪ 懐中電灯

暗い中での避難時にも役立ちますし、避難先での夜、外で排泄をさせた時などは、その場所を特定するのに便利です。防水機能の付いている物が便利です。



懐中電灯



ウェットティッシュ

⑫ お手拭（ウェットティッシュ）

水が使えない時のために用意しておく便利です。人間の汚れを取る事も出来ますし、ペットを拭く事も出来ます。ですが、商品を選ぶ際には注意が必要です。アルコールが含まれた物はペットには向いていません。アルコールがペットの皮膚に付着した場合、刺激が強すぎ、肌荒れを起こしたり、刺激から痛みを感じ、暴れる事があります。人間の赤ちゃん用などがお勧めです。

⑬ 木酢

排泄場所に散布しおしっこの不快なおいを消すために必要です。普段の散歩でも持参するよう心がけておきましょう。糞を拾ったり埋めたりするためのスコップと一緒に持参しましょう。ベルトに装着できるようにしておく便利です。



木酢

⑭ 手入れ用品

ペット用ブラシ、歯ブラシ、爪切りなど普段の衛生管理に必要な最低限のケアセットも準備しておきましょう。



⑮ その他

ア 小型犬（猫）の場合、建物の隅に隠れてしまうと所在がわからなくなることがあります。このような場合に備え鈴を付けておくといいでしょう。

イ 避難中に急にリードを引っ張られたり、強い力で犬を制御しなければならない場合があります。大型犬と避難する場合には革手袋が便利です。

ウ 水害が想定される場合はペット用救命胴衣があると安心です。日頃から救命胴衣をつけて海水浴などの水遊びをしておきましょう。

エ 冬期間は暖房のない場所で、また夏場は室温の高い所での避難生活を余儀なくされることがあります。使い捨てカイロや瞬間冷却剤などがあると便利です。

（３）信頼関係の確立

日常生活の中で動物と一緒に生活を楽しむことはペットとの信頼関係を構築する上で大変役に立ちます。また、自分のペットだけでなく、日頃の散歩やドッグラン、ペットの運動会等のイベントに参加し、飼い主同士やペット同士の信頼関係を築いておきましょう。

① 飼い主とペット

日頃から愛情を持って育て、積極的に遊んで、人と動物の信頼関係を築いておく必要があります。飼い主とペットはもちろんですが、飼い主以外の人に対しても隠れたり、

攻撃したりすることがないように意識して接触させましょう。仮にペットと離ればなれになった場合でも、保護活動をスムーズに行うことができます。また、ペットの好きな遊びやおもちゃを作っておくと災害時にペットを落ち着かせることができます。

② 飼育者同士

信頼できる犬友達や猫友達を作っておくことも大切です。ペットを置いて家を空けなければならない等の場合に助け合うことができる仲間がいると心の支えとなります。犬であれば散歩の時、ドッグランで遊ばせる時等にお友達を作っておきましょう。猫は一緒に遊ばせる機会はあまりありませんが、猫好き同士や親戚、知人で行き来し、日頃から助け合っておくといいでしょう。



犬友と一緒にイベントに参加



犬友と一緒に旅行

③ 他の犬や動物

日頃の散歩やドッグラン等で他の犬と一緒に過ごす社会性が醸成しペット同士の信頼関係を築くことができます。集団で遊ぶことができるよう心がけておきましょう。

犬種によっては難しい場合がありますが、犬以外のペットとも接触させる機会を持つことも大切です。

（４）動物愛護の実践

人と動物の絆は適切な飼養管理の実践と推進により深められていくものです。一部の心ない飼い主の行為により、飼い主全体が非難されたり、ペットが嫌われたりしないように動物仲間の輪を広げ、動物愛護の普及や飼い主のいない動物の新しい飼い主探しなど積極的に動物愛護活動に参加しましょう。



愛護活動の普及(飼い主搜し)

(5) 地域社会への貢献と交流

毎日の犬の散歩の時にペットと一緒にゴミ拾い等の環境整備をしたり、地域の防犯パトロールをしたり、時には福祉施設の訪問活動に参加したり楽しみながら地域社会へ貢献することができます。機会を捉えて積極的に参加してみましょう。



2 犬のトレーニング講座

(1) 基本的なしつけの確認

災害時に限らず、日常、社会で生活していく上で基本的なしつけは大切です。座れ、伏せ、待て等の基本的なしつけやむやみに吠えたり、噛みついたりしないようにしつけておかなければなりません。また、日頃から色々な人に触れさせ、抱かれても大丈夫なようにしておかなければなりません。避難訓練を受ける前にこれらのしつけは、日頃ドッグラン等で飼い主さんや他の犬たちと一緒に遊びながら覚えさせておきましょう。

まず基本的なしつけができているか飼い主のリードワークや命令の出し方、犬の服従等の状況を確認し、できていない場合は初めからきちんと勉強します。また、日常感じている問題点も避難訓練の前に矯正しておきます。

(2) 避難のためのトレーニング 1 (一緒に逃げる)

愛犬と一緒に避難してみましょう。災害発生時は壊れた建物や道路、がれきなどの障害物を避けながら落ち着いて安全に避難しなければなりません。混乱の中でもきちんと秩序を保ちながら避難してみます。

① 歩く

災害時には地震の揺れや大きな音、悪天候の中をペットと一緒に避難しなければならない場面に遭遇します。リードを付けてあるいはノーリードで飼い主と目的の場所まで一緒に歩いてみましょう。目的の場所に着いたら静かに伏せて次の人を待ちます。



被災現場を想定したトレーニング

② 走る

リードを付けてあるいはノーリードで目的地に向かって障害物を避けながら走りましょう。橋の上や狭い道ではスピードを落とし、飼い主のスピードに合わせられるようにします。

ペットが橋の上を怖がり急に止まったり強く引っ張ったりしないようにします。



大きな犬とも一緒のリズムで走ります

③ 逃げる

災害は日中に起こるとは限りません。暗い夜道、暗い地下道、水の中を逃げる場合もあります。どのような状況でも一緒に移動できるようにします。普段から水に慣らしたり、障害物を避けて逃げられるようにします。



水の中を歩くトレーニング

④ 越える

がれきなどの障害物の中を非難することを想定し、ハードルなどを一緒に越えてみましょう。

犬の苦手なことを飼い主と一緒に克服します。

⑤ 一列に歩く

一部の無秩序な犬などに動ずることなく、参加者全員でリズムに合わせて秩序良く移動します。一斉に止まる。一斉に走る。一斉に歩きます。目的地では一斉に待ちます。

日頃から、花火や雷の音などを怖がらないようにしつけておくことで騒音や振動の中での避難がスムーズに出来ます。



集団移動のトレーニング

(3) 避難のためのトレーニング 2 (安全に逃げる)

① 招呼（呼び戻す）

大きな音や揺れ等で驚いて飼い主から離れてしまう場合や動けなくなる場合があります。

日常生活の中で花火や雷の音におびえたり逃げ出したりしてしまうことがあると災害時の大きな音で驚いて逸走してしまう場合があります。

音に怯えて逸走しないようにしなければなりません。

いったん逃げ出した場合も飼い主がきちんと呼び戻せること。また、その場を動かずに待たせておくことができないとリードを付けることができません。「来い」「待て」はどのような場所でもきちんとできるようにしましょう。

ア 呼び戻す

ドッグランで遊んでいる時、おやつをもらっている時などに離れている愛犬を「来い」で呼び戻します。

イ 待たせる

呼び戻した犬を「待て」でその場で待たせリードで繋がします。

② 入れる（クレートトレーニング）

車で避難する際は、運転中にペットがパニックになると交通事故に結びつきかねません。また、避難所では突然のクレート生活が始まる場合もあります。そのような時に飼い主もペットもできるだけストレスとならずに落ち着いて生活できるようにクレートトレーニングを行っておく必要があります。

クレートトレーニングは避難所に入りきれずにやむを得ず保護施設で生活する場合にも必要です。基本的なクレートトレーニングを勉強します。



避難場所では1頭1頭にケージが割り当てられるとは限りません

ア クレートに入れる。

大小のクレートに飼い主やその他の人の指示で自ら入れるようにし、中で落ち着いていることができるようにします。車に設置したクレートにも自ら入れるようにすると普段の生活でも安心です。

イ クレートを移動させる。

犬が入ったままクレートを移動します。その時犬がパニックにならないで落ち着いていられるようにします。小型犬の場合、クレートに入れたまま、車、電車などにも乗せてみることもお勧めします。

（４）避難のためのトレーニング ３（集団で逃げる）

① 社会性を身につけさせる。

避難中や避難所では飼い主以外のボランティアさんや他の犬達と仲良く過ごすことができればなりません。吠えたり、噛んだり、けんかしないようにするばかりでなく、健康に過ごせるようシャンプーや爪切りができるようにしておく必要があります。

ア 犬連れでのすれ違い

様々な犬種でも犬同士のコミュニケーションがとれるよう挨拶の仕方をトレーニングをします。

イ 集団の中での問題点の観察と矯正

ドッグランで遊ばせながら個々の犬の問題点を観察し、その場で問題点を矯正

します。

ウ 飼い主以外の人との接触

飼い主以外が触れる場合もおとなしくしてられるようにリードワーク、タッチングができるようにトレーニングします。



(5) 避難のためのトレーニング 4 (避難所での生活)

避難所では皆さんストレスを抱えて生活しなければなりません。動物に起因するトラブルが発生しないようアレルギー対策はもちろんのこと、体毛の飛散防止、適切な排泄物処理、鳴き声などに注意して生活しなければなりません。避難所では、吠えたり暴れたりさせないようにするとともに服を着させ、特定の場所以外での排泄をさせないようにする必要があります。

① 鳴き声を防止する

避難所では無駄吠えをなくさなければなりません。無駄吠えの防ぎ方を習得し日頃から実践しておかなければなりません。

② 服を着せる

日頃からハロウィンパーティー等をとおして楽しみながら犬に服を着せるトレーニングは大切です。服や雨具を着用させ、また、脱がしてみます。エリザベスカラーの装着や、靴下もはかせてみます。



③ 包帯をする

犬に包帯を巻く練習をします。飼い主がきちんと保定する練習をします。
また、包帯で口輪をしてみます。

④ 餌を食べる

どのような容器でも、他の犬達が餌を食べているところでも仲良く食事出来るようにします。

⑤ 排泄

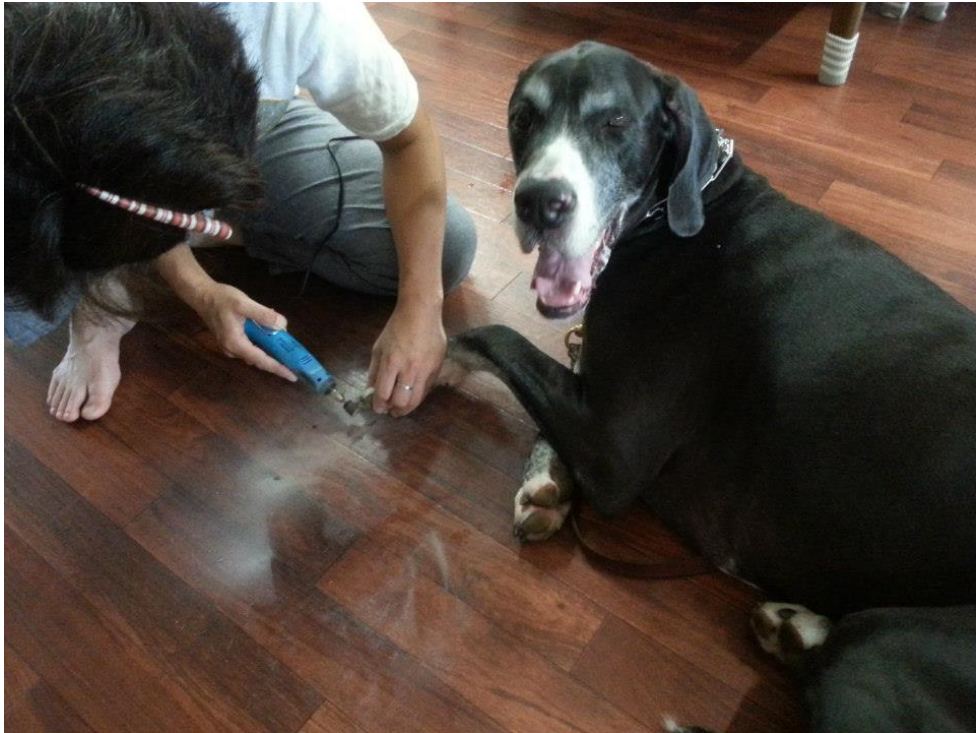
決められた場所以外では排泄しないようにしつけます。

⑥ 投薬

ストレス無く薬が飲めたり、薬を付けたりできるように練習します。

⑦ 爪を切る

飼い主自らが爪切りをできるように練習します。



（６）地域の総合防災訓練への参加

避難トレーニングが終了したら、地域の総合防災訓練にペット同伴で参加してみます。市町村の動物担当課に事前に連絡をとり、一般参加者として、できればペット仲間で誘い合って多数で一緒に参加しましょう。また、煙体験コーナーなどさまざまなブースに積極的に参加してみます。市町村や地域の皆さんにペット同伴の避難者がいること、迷惑をかけないで避難できることを認識してもらいます。犬の排泄専用のポール等を設置するなどの準備もしてみましょう。

① 入場

ペット同伴者で規律正しく一斉に入場しましょう。



② 受付

ペット同伴者受付コーナーで必要事項を記載し、避難場所の指示に従います。

③ 避難場所への移動

指示された避難場所に速やかに移動し待機しましょう。

④ クレートの活用

準備したクレートに入れて待機してみましょう。



⑤ 体験コーナー参加

一般参加者の体験コーナーにペット同伴で積極的に参加してみます。



⑥ 食事体験

一般参加者と一緒に席でペットと一緒に食事の体験等を行っていきましょう。



⑦ 整列・解散

最後まで一緒に参加します。



愛犬同伴避難トレーニング資料編

1 地域防災計画の確認

お住まいの地域の地域防災計画を確認しておきましょう。現在ペットの飼育頭数は15歳未満の子供の数よりも多く1,450万世帯が飼育しています。（犬を飼う世帯約900万、猫を飼う世帯約550万 一般社団法人ペットフード協会 2012年度の推計）

また、ペット飼育者の8割が災害発生時の避難生活でもペットと一緒に暮らしたいとの希望を持っています。そうしたことから、都道府県や市町村のでは地域防災計画に愛玩動物の救済について記述してあるところが多くなってきています。お住まいの地域の地域防災計画を確認しておきましょう。

2 避難場所の確認

ペット同伴避難施設を確認しておきましょう。

（1）候補の提案

ペットホテルなどの他、ペットと一緒に泊まれる旅館・ホテルなど動物取扱管理士のいる宿泊施設等を確認しておきましょう。

また、普段からペット仲間と連絡を取り合い、いざという時には助け合えるようにしておきましょう。

そのためには、動物愛護の地域ボランティアなどに積極的に参加して他の飼い主との信頼関係を築いておかなければなりません。

（2）確認事項

- ① ペットの種類別避難場所
- ② 排泄可能な場所
- ③ 騒音の状況
- ④ 衛生管理の状況
- ⑤ フードの供給状況
- ⑥ 温度管理の状況
- ⑦ 管理人（獣医師含む専門家）の設置状況
- ⑧ 建物の状況

(3) 避難場所の確認方法

災害時の避難場所はあらかじめ市町村の地域防災計画で決められていることがほとんどですので、動物同伴の可否について確認しておきましょう。

- ① 緊急災害時動物救済本部への確認（都道府県、政令指定都市等）
- ② 緊急災害時動物救援本部への確認（（公財）日本動物愛護協会 ☎03-3409-1822）
- ③ 避難先市町村への確認
- ④ 広報紙・マスメディアでの確認
- ⑤ 地域の獣医師会への確認（（公社）新潟県獣医師会 ☎025-284-9298）
- ⑥ 動物愛護団体等への確認（（一社）新潟県動物愛護協会 ☎025-284-8201）

(4) 避難場所問い合わせ先

施設名	所管地域	電話番号
新潟市動物愛護センター	新潟市	025-288-0017
村上保健所	村上市、関川村、 粟島浦村	0254-53-8371
下越動物保護管理センター （新発田保健所）	新発田市、阿賀野市 胎内市、聖籠町	0254-24-0207
新津保健所	五泉市、阿賀町	0250-22-5175
新潟県動物愛護センター 三条保健所	三条市、加茂市、 燕市、田上町、弥彦村	0258-21-5501 0256-36-2366
長岡保健所	見附市、長岡市、出雲崎町	0258-33-4936
魚沼保健所	魚沼市、小千谷市	025-792-8619
南魚沼保健所	南魚沼市、湯沢町	025-772-8143
十日町保健所	十日町市、津南町	025-757-2707
柏崎保健所	柏崎市、刈羽村	0257-22-4180
上越動物保護管理センター （上越保健所）	上越市、妙高市	025-525-9263
糸魚川保健所	糸魚川市	025-553-1938
佐渡保健所	佐渡市	0259-74-3399

3 避難場所では

できるだけ飼い主とペットと一緒にいることのできる避難場所を探します。
飼い主自らが、共同でペットの世話をを行うことにより、避難中でも安定した避難生活を送ることができ、飼い主同士のつながりもできることから、安心して避難生活が継続できます。
また、避難所では動物に係る人員も割く事ができます。



(1) 動物同伴者専用の避難場所の設置

動物嫌いな人、アレルギーを持った人、障害者などへの配慮ができるほか、衛生面での管理が容易となり、飼育者同士が役割分担をして避難所の運営にあたることができます。同伴専用の避難所を希望しましょう。

① 管理方法

ア ケージはできるだけ専用とし、避妊、去勢の有無でケージの設置場所を分ける必要があります。また、定期的な洗浄消毒を行い、衛生管理をしなければなりません。日頃使用しているクレートが望ましいです。

イ 問題行動（噛みつく、吠えるなど）を起こす動物は隔離し、避難者に迷惑をかけないようにする必要があります。また、疾病等の疑いもあることから、問題行動の原因を専門家に相談することも必要です。

ウ 疾病予防のため、ワクチン接種を行っていない動物には予防接種を行い、一時隔離飼育しなければなりません。

エ 専門家、動物に対する知識を持った人材の確保や行政やボランティアによる相談窓口を利用します。

オ 高齢な動物への配慮も必要です。獣医師会への相談や動物病院などの活用も考えておかなければなりません。

カ 排泄用のポールを設置し、排尿後は放置せず、水、または木酢をかけるなどの管理を徹底しましょう。

4 仮設住宅では

仮設住宅は隣家との入り口が近いこと、玄関前の通路も狭いことから動物は室内飼育となります。避難生活でペットもストレスを抱えていることが多いことから逸走の心配もあります。玄関前にはペットを飼育している旨の表示をしておきましょう。また、玄関に不意に飛び出さないよう柵等を設置すると安心です。ペットを飼育している人で組織を立ち上げ動物救済本部やボランティアとの連絡調整、ペットに対する連絡事項の伝達や場合によっては苦情の処理などに対応できるようにしておく必要があります。ペット専用掲示板の設置も有効です。

- ① 玄関にペットがいる旨の表示をする。
- ② 室内で飼育する。
- ③ 繁殖制限手術を受ける。
- ④ ペットに飼育者表示をつける。
- ⑤ 飼育者の組織を立ち上げる。
- ⑥ 狂犬病やその他の感染症予防ワクチンを接種する
- ⑦ 排泄物の始末をきちんとする。
- ⑧ 散歩はリードをつけて行う。



避難者について				
避難者氏名 (性別・年齢)	湯沢 一郎 (男・55歳) 湯沢 町子 (女・55歳)			
住所	湯沢町大字神立300			
緊急連絡先	090-1234-5678 (湯沢一郎)			
被災状況	全壊			
ペットについて				
動物種	犬	品種	雑種	
呼び名	ハチ	性別	☐ オス ☐ メス	☒ 避妊去勢済
年齢	7歳	毛色	茶	
体重	14kg	マイクロチップ		
鑑札番号	H18年度 8888号	注射済票	H25年度 888号	
混合ワクチン	☒ 接種済み (H25年8月) ☐ 未接種			
制止の言葉、既往歴等特記事項 まて、駄目 よく吠えて脱走する。				

避難者について				
避難者氏名 (性別・年齢)	南魚沼 市蔵（男・78歳） 南魚沼 米（女・75歳） 南魚沼 太郎（男・50歳）			
住所	南魚沼市六日町180-1			
緊急連絡先	090-8765-4321（南魚沼太郎）			
被災状況	全壊			
ペットについて				
動物種	ねこ	品種	雑種	
呼び名	たま	性別	オス	メス ☐ 避妊去勢済 ☒
年齢	10歳	毛色	茶、黒、白（三毛）	
体重	4kg	マイクロチップ		
鑑札番号	年度	号	注射済票	年度 号
混合ワクチン	☒ 接種済み（H25年5月） ☐ 未接種			
既往歴等特記事項				



執筆 獣医師 川上 直也
ドッグフィールドMAIKO 清水 美森

発行・編集

平成25年8月1日発行

ドッグフィールドMAIKO
ドッグトレーニングスクール
清水 美森

〒949-6423 新潟県南魚沼市舞子2056-7
☎025-783-2779
URL <http://www.dog-run.jp/>